

AMG リハビリテーション部広報誌

# リハ通信

連携・信頼・進化のAMG リハ

## リハビリテーション部 基本方針

1. お互いに高められる関係づくり
2. 新しい時代を創出する体制づくり
3. 地域包括マネージメントシステムの確立

2018/2月号

AMG 協議会リハビリテーション部  
部長 奥村 博文

## 「今年卒業されるセラピスト(の卵)のみなさまへ」



(リハ通信は、私どものグループと関係性の深い養成校にもお送りしているので、卒業間近の学生の皆様方へのお声かけです)

この号が、配布・郵送されるころには、PT・OT・STの国家試験も終わっておりますね。今年、国家試験を受験された皆様方、本当にお疲れ様でございました。

卒業生の皆さま、試験をせっかく終わったのなら、残り少ない学生生活を満喫してくださいね。私が採用面接をしていると「4月までどんなことを勉強すれば良いですか？」と良く質問されるのですが、「国家試験が終わったら思う存分遊んでください」と答えるようにしています。友人と共有できる時間がたくさん有る時期なんて、人生でそんなにありませんから。

働くようになれば、勝手に勉強したくなります。勉強したことが目の前の患者さま・ご利用者さまを変えることに活かされることは、学生の時には経験できない喜びです。

夢を持って、高い目標を持って、社会人第一歩を踏み出してくださいね。

あと、面接に来られた方々には、よくお伝えするのですが、初任給で、ご両親にプレゼントを買ってあげてください。1000円ぐらいの物で良いですから。(残るものですよ。食べ物だと食べたら無くなりますでしょ) 1000円の物でも、ご両親は50000円分ぐらい喜んで、大切にしてくれますよ。

我々の仕事は、「人を今よりほんの少し幸せに近づける」仕事だと思っています。身近なご両親を幸せな気持ちにできないような方は、他人を幸せに近づけるなんておこがましい話ですから。ぜひ実践してくださいね。喜ぶ両親を見て皆さんも幸せな気持ちになれますよ。

私どものグループに就職していただく方々は、4月からよろしくお願いたしますね。4月の入職式、新人職員研修会でお会いできるのを楽しみにしております。

## 「AMGの職員の方々へ」



いつも精一杯のお仕事をありがとうございます。

4月から、診療報酬・介護報酬が改定されますね。診療報酬では、回復期リハビリ病棟のハードルが一気に上がりますね。現場の皆さまは大変と思いますが、日ごろの自分たちの仕事を見直すよい機会と思って、自分たちのリハビリの質を追求し続けてください。我々ほど高い志を持っている集団ですから。越えられない壁はないと思っています。

介護報酬は、我々にはうれしい改正ですね。老健本体は、在宅復帰率だけでなく、リハビリの充実度なども評価に加わりましたから。原点回帰ですね。我々のような介護保険分野のリハビリに本気で取り組んでいるグループとしたら、他の施設に差をつけるチャンスです。

訪問リハビリ・通所リハビリも、はじめは自施設医師の診察などの土台作りが大切かもしれません。

しかしながら、その後は、リハビリテーションマネジメント加算Ⅱ・Ⅲ（Ⅳはまだ内容が十分に明らかになっていませんが）の算定が、難なく出来るぐらい体制の強化・質の向上にご協力ください。大変なこととは十分分かりますが、日本一、老健を持っていて、日本一、老健に従事するリハスタッフを持っているグループですから。プライドを持って取り組んでいきましょう。よろしくお願いいたします。

※（毎回読んでくださっている方も少ないかもしれませんが）

「患者さまとのエピソード」については、今回はお休みです。次号から再開いたします。

### ◆部長ホットライン

TEL : 048-775-6466

MAIL : hirofumi.okumura@achs.jp

なんでもご相談ください

# 前園所長挨拶



## AMG 地域健康推進研究所

### 所長 前園 徹

リハビリテーション部の皆さん、寒い寒い冬がおわり、やっと暖かくなってきましたね。

この春は、診療報酬・介護報酬・障害福祉報酬のトリプル改定と、市町村総合事業の全国スタートですね。

上尾市でも数年前より少しずつ、総合事業への取り組みが始まっています。上尾市内に勤務するPTOTSTの集まりである「上尾市リハビリテーション連絡協議会」(会員350人程度)が立ち上がってから4年目を迎えます。2018年は、モデル事業B型の通所介護事業が4箇所が立ち上がることになっています。上尾市は、「箱族の街」(舟越健之輔 著)の舞台にもなっているように大きな団地が4つあり、市内でも特に高齢化が進んでいます。

先日、リハ連絡協議会メンバー10名で上尾第2団地のいきいき教室(B型通所介護事業)の見学、市社協・民生委員・地域包括支援センターケアマネの方々との話し合いに参加してきました。いきいき教室は、1時間のレクレーションとその後1時間のお茶会、34名の高齢者が参加していました。

この団地では、自治会、民生委員が中心となって、見守りやサロン活動、オレンジカフェ、忘歳の集い、交流会、ミニ講座、いきいき教室(B型通所介護事業)などを行っています。しかし、高齢化が進み、対象者が急増して、待機者が出ています。担い手が不足して、事業拡大ができないそうです。平成30年度からは、市の予算も10万円/箇所つくことで、充実を図るそうです。レクレーションを仕切っているのは、一人の女性。この方のような人を養成して増やすことも必要。レクレーションのメニューのアドバイスの必要とのこと。リハ専門職への期待を肌で感じた時間でした。

その後、上尾市リハ連絡協議会定例会議にて、介護報酬改定でもあるように地域の介護施設とリハ専門職との連携についても一定の方針を確認し、第2団地のいきいき教室へのかかわりについて第2団地の管轄地域にあるセラピストが一度集まり協議することも決まりました。

夏頃には、かかわりも軌道にのっていると思いますので、興味のある方は見学してみることもお勧めします。

私たちをとりまく環境の変化が著しいですが、リハ専門職にとって、やりがいのある環境が整備されつつあることは、とっとうれしいことです。

#### ◆AMG 地域健康推進研究所

TEL : 048-778-2805

MAIL : [toru.maesono@achs.jp](mailto:toru.maesono@achs.jp)

FAX : 048-778-2806

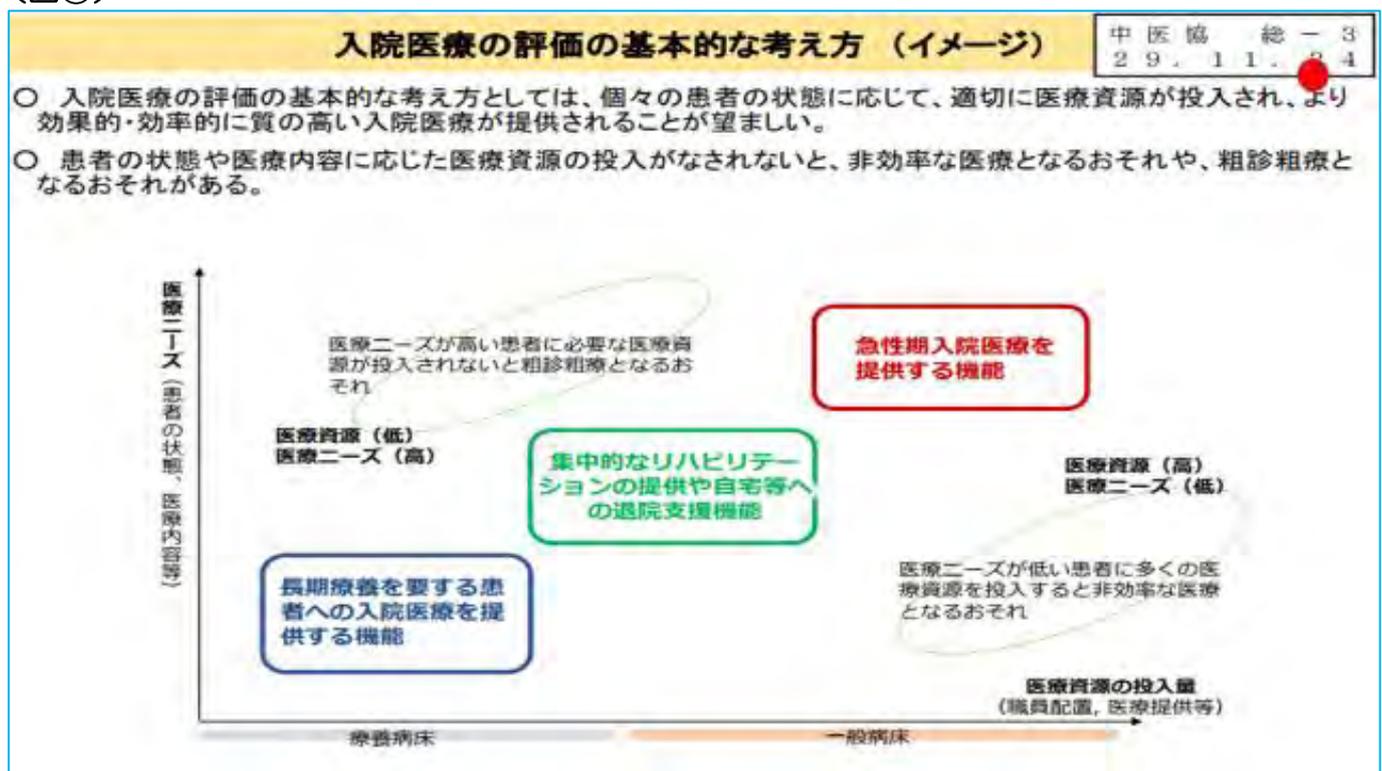
## 診療報酬・介護報酬改定について

AMG 地域健康推進研究所  
所長 前園 徹

30 年度は、皆さんも良く知ってのとおり 6 年に 1 度の診療報酬・介護報酬の同時改定ですね。同時に障害福祉報酬改定と全国の市町村における総合事業が実施義務となる年でもあります。耳にたこのできるだけ聞かされている「2025 年に向けた地域包括ケアシステムが充実、進化へ向かう年」ですね。

医療・介護・障害福祉ともに、本体部分はプラス改定。国の意気込みを感じる改定です。入院医療について、大改革ですね。病院のあり方を変える改革です。急性期入院医療を提供する機能、集中的なリハビリテーションの提供や自宅等への退院支援機能、長期療養を要する患者への入院医療を提供する機能の 3 つに分け、それぞれで医療資源と医療ニーズの評価の組み合わせで複数の段階の設定が行われます。回復期リハ病床では、6 段階に分けられます。(図①)

(図①)



集中治療室での多職種チームによる早期からのリハビリテーションが求められ、超急性期・急性期・回復期における 365 日リハ提供体制が出来上がりました。

これにより、医療における継続した切れ目のないリハビリテーション提供体制が実現しましたね。

また、介護保険分野においては、老健の機能が①在宅復帰、在宅療養支援のための地域拠点となる施設。②リハビリテーションを提供する機能維持・改善の役割を担う施設。と明確化されました。(図②) また、介護療養病床に変わる介護医療院が創設されました。

(図②)

### 介護老人保健施設の役割の明確化

**【定義】 地域包括ケア強化法による改正前（介護保険法第8条第28項）**  
 介護老人保健施設とは、要介護者に対し、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことを目的とする施設。

**【定義】 地域包括ケア強化法による改正後（介護保険法第8条第28項）**  
 <平成29年6月2日公布、平成30年4月1日施行>  
 介護老人保健施設とは、要介護者であって、**主としてその心身の機能の維持回復を図り、居宅における生活を営むことができるようにするための支援が必要である者**に対し、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことを目的とする施設。

**(基本方針)**  
 第一条の二 介護老人保健施設は、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことにより、入所者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにすることとともに、**その者の居宅における生活への復帰を目指すものでなければならない。**  
(介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準(平成十一年三月三十一日)(厚生省令第四十号))

➡ ○在宅復帰、在宅療養支援のための地域拠点となる施設  
 ○リハビリテーションを提供する機能維持・改善の役割を担う施設

在宅重視の観点からも、医療・介護における切れ目のないリハビリテーション提供体制の更なる充実が求められています。

もう一つの視点は、自立支援型ケアの推進と重度化予防です。リハビリテーション専門職には、総合事業における介護予防事業への支援や地域ケア介護だけでなく、地域の通所介護事業所、訪問介護事業所、グループホーム等を訪問し利用者の評価を行い、自立支援型のプラン作成のお手伝いをする事が期待されています。(図③)



(図③)

医師を含めた多職種による連携についても、医師を含めたチームでの取り組みの場合には、在宅復帰率や機能改善で好結果が得られたことから、リハビリテーションマネジメント加算の要件の充実が図られました。この中においてもリハビリ専門職に多くの期待が寄せられています。

今回の改定の流れをよく理解して、更に質の高いリハビリテーション提供に、がんばりましょう。

# 平成29年度 上尾中央医療専門学校新聞

## －教育の質向上への取り組み－

今回は当校の教育の質向上に向けてどのような取り組みを実施しているか紹介します。

### ①職能要件に基づく評価・対策

5分野の自己評価と他者評価（管理・教育・コミュニケーション/プロフェッショナリズム・研究・臨床）  
⇒年度目標とリンクさせ、半期ごとの学科長面談で進捗確認

### ②各種研修会・学会参加

年度目標と対応した研修会や学会参加や発表  
学内研修：コンプライアンス研修（個人情報保護法・私立学校法・ハラスメントなど）  
ビジネスマナー研修（文書作成・保護者対応など）

### ③教員間の講義評価

学科問わず、自身の講義評価を所定の書式に従って評価してもらい、その後に評価者とディスカッションする ⇒自身の講義の課題点を明確化する（次回へ反映）

### ④学生からの講義評価

学生からの講義評価を科目終了時に取っている。  
⇒担当者に数値とフリーコメントを返し、振り返りに活用している

### ⑤FD活動（ファカルティディベロップメント）

学科ごとに自分たちの教育活動に関する振り返りや知識・技術の共有をしている

カリキュラム委員会の外部委員による講義見学！  
見学中にも様々な意見交換を実施しています。  
頂いたご意見をもとに講義の改善に反映させています。



### ■イベント情報

イベントは予約制です。  
ホームページまたはお電話でお申し込みください。

#### ・学校説明会

1月13日(土) 2月10日(土)

#### ・職業説明会

2月24日(土) 3月26日(月)

### ■入試情報

一般入試 始まりました。  
3月3日(土)(作業療法学科のみ)

### ◆ 学校見学・個別相談

随時受け付けています！お知り合いでリハビリに興味のある方がいらしたら、お気軽にお声掛けください。

### －チャレンジ研修 募集－

経験年数問わず  
お待ちしております♪  
一緒に講義体験しませんか？

未来が求める「人」を育成します。

## 上尾中央医療専門学校 公開講座

からだメンテナンス!  
いつまでも元気にすこやかに・目指せ!生涯現役!!

参加費無料  
先着40名様  
(事前予約制)

## 体力測定& アッピー元気体操Part2講座

子供から大人まで・ご家族でのご参加も可能です。  
多くの皆様のご参加をお待ちしております!!

2018年3月24日(土) 10:30~12:30  
(受付:10:00~)

**[会場]** ▶▶ 上尾中央医療専門学校(上尾市大字平塚678-1)  
上尾駅東口から朝日バス伊奈役場行・がんセンター経由伊奈役場行・がんセンター行  
「無線入口」下車すぐ

**[講師]** ▶▶



【上尾中央医療専門学校 地域貢献委員会 委員】 作業療法学科教員 生方剛 ・ 梅津聡  
理学療法学科教員 新井大志 ・ 白石和也 事務職員 徳永佑香

**[内容]** ▶▶ ●年齢による身体の変化について  
●簡単な体力測定  
●アッピー元気体操Part2の効果と実施  
※当日は動ける服装でご参加ください



**[申し込み]** ▶▶ 右のQRコードまたはファックスにて  
ファックスの方は【公開講座参加申込】と記載のうえ  
①氏名(フリガナ)②年齢③住所④連絡先(電話番号)  
をご記入し 048-775-3444 にお送りください  
※定員に達した場合のみ、ご連絡差し上げます



お問い合わせ先

職業実践専門課程認定校  
～未来が求める作業療法士・理学療法士を育てる学校～

**上尾中央医療専門学校**

TEL **048-778-3232**  
学校URL <http://acmc.ac.jp/>

## PT 部会よりスペシャリティ研修会の実施報告です!! どちらも好評でした♪

2017年12月7日 PT 部会主催 第2回スペシャリティ研修会 @新宿

テーマ：脳卒中に対する理学療法 ～病態の整理を中心に～

講師：上尾中央医療専門学校 専任教育 科長 宮原拓也 先生

参加者：36名



情報収集～評価～アプローチまでの一連の思考過程を知ることができ、とても参考になった。  
(7年目・病院勤務)

講師の思考過程が可視化されており、とても参考になった。明日から実践できる内容で満足  
(6年目・病院勤務)

普段の業務だけでは知ることができない考え方を学べた。動作の捉え方が特に勉強になった。  
(1年目・老健勤務)

他の症例についても着目すべきポイント、プログラム立案までのプロセスを知りたかった。  
(6年目・老健勤務)

定員36名があつという間に満席となり、参加希望を出すに至らなかったという声もいただきました。

講師が脳卒中患者様に介入する前に確認していること、介入中に気を付けていることを分かり易く説明。参加者の興味が充分満たされる内容でした。是非、来年度も定員を増やして開催できるよう調整致します。

PT 部会担当 瀧上



2018年1月19日 PT 部会主催 第3回スペシャリティ研修会 @横浜

テーマ：認知神経リハビリテーション

講師：上尾中央総合病院 リハビリテーション技術科 主任 中島広樹 先生

参加者：19名



デモの時間があって良かった。声かけの仕方やハンドリングの仕方等、明日の治療から取り入れたい。(12年目・病院勤務)

認知神経リハビリテーションの講義は初めてだったが、とても興味深かった。  
(3年目・病院勤務)

座位訓練など、自施設でも実践してみたい内容でした。  
(8年目・老健勤務)

実技を行うことで少し理解が深まったように感じる  
(13年目・老健勤務)

多数ある治療コンセプト。個人的に研鑽を積んでいるPTが沢山います。得意としている領域や治療法のイントロダクションセミナーをお願いする企画。その第一弾でした。認知神経リハビリテーションを知らないPTも、少し勉強したことがあるPTも基本的な考え方を理解、吸収する機会となりました。

PT 部会担当 中西



次回は2月20日  
腎不全に対するPT  
@上尾医専

## キャリア支援委員会より AMG リハ部で活躍するセラピスト紹介

キャリア支援委員会では、キャリア支援ポリシーに基づいて活動を行っております

### <AMG リハビリテーション部キャリア支援ポリシー>

AMG リハビリテーション部は

地域と組織に“愛”を抱き、“やりがい”や“夢”をもって働き続けられる

スタッフを育成する。

その為に、

スタッフ1人1人が自身の Can・Will・Must を自覚し、

自律的・主体的に自身のキャリアを

考えられる力を育成する。

AMG リハ部には、魅力的な働き方をされている方が多くいらっしゃいます。

今回は、さがみリハビリテーション病院の佐伯まどかさん（作業療法士）と越谷誠和病院の那須高志さん（理学療法士）にご協力をいただき、お二人の活躍をご紹介させていただきます。

\*ご多忙の中、ご協力をいただき、ありがとうございました。<m(\_)\_m>

作業療法士、理学療法士としてはもちろん、働く者としてロールモデル（お手本）となる内容となっております。ぜひ、ご一読ください。

キャリア支援委員会



## さがみリハビリテーション病院 佐伯まどかさん (OT) のご紹介



### I. はじめに

#### 1. 基本的属性（性別、年齢、職業、家族構成、居住地、

資格・免許、学歴）

性別：女性

年齢：40歳代前半

職業：作業療法士とケアマネージャー

家族構成：夫と実母と犬（ゴン）

居住地：最近、崖の上の家にお引っ越ししました♪

資格：何かあったかな～。

免許：普通自動車免許・作業療法士

学職歴：高校卒業→体育大学→整形外科のクリニックの

リハ助手→夜間の作業療法士の養成校に通いながら精神

科のリハ助手→新相模原病院（現在：さがみリハビリテ-

ション病院）

#### 2. なぜこの職業に就こうと思ったのですか？

体育大学卒業後「まだ学生でいたいな～♪」と、思いアルバイトをしていた本屋さんで資格の本を読んだときにリハビリの仕事があることを知りました。

「とりあえず、リハビリの仕事についてから考えよ～」と思い整形外科のクリニックへ就職。すると、両膝 OA のお婆ちゃん達が「痛い痛い」と言いながら毎日通ってくる姿を見て「不思議だな～？痛いなら家にいた方が良いのに…。電気を10分あてて治るのかな？治らないでしょ～」と…。

膝が痛くてもお友達に会いに来ることが「楽しい」と感じる人がいることに面白さを感じて「資格を取るなら作業療法士かな～」と思って入学しました。

## 3. 今、取り組んでいること、学んでいることは？

移り気な性格なので、今日現在学んでいることは「物理療法」「ケアマネージメントに対する必要な知識全般」。

取り組んでいると言うより、取り組む前の思考している段階ですが「メンタルヘルスを柱にした面接技法をどう役職に伝授するか」「メンタルヘルスの仕組みをどう作るか」です。

## 4. 今、取り組んでいること、学んでいることにはどんな想いで？

興味があったり、やっていて面白いから。あとは、長年やっていたら自分が得意とする分野になりつつあるから。あと、自分の無力感を軽減したいから…。

## II. 経緯とターニングポイント

## 1. 職歴

学歴と一緒に書いてしまいました。

## 2. 子供のころはどんな子供でしたか？

恥ずかしがり屋の人見知り。

何かに取り掛かるのに作業を止めてじっくり考えるタイプで、自分で「よし」と言うタイミングが来ないと動かない。動くとき早い。と、母に言われていました。

今でもこの性質は大きく変わっていないと思います…。

## 3. 父親から学んだことはなんですか？

もう亡くなっているのですが、亡くなってから父について知ることが多かったです。

人って、分かっていると思っても『知らない部分が大部分なんだなあ』と言うことを教えてもらいました。

## 4. 母親から学んだことはなんですか？

母は「いろんな人がいるよね～」と言いながら万物を「よし」とすることが癖です。

そんな「見方」もあるんだな～と、日々思っています。

## 5. 今取り組んでいること、学んでいることのきっかけは？（ターニングポイント）

・物理療法は、今年の作業療法学会に参加して当院の OT が世の OT から「遅れている部分だ！」と危機感を感じたから。

・ケアマネージメントに対する必要な知識全般は、日々の業務で自分の担当利用者様に不利益を与えてしまっているような無力感を感じているから。

・メンタルヘルスについては、役職についてスタッフ面談をするようになり、いかに面談が大事かと感じ「何か形にしたい」と思ったから。

つまり！

気になってそれがいつまでも心に残っていることをやっているだけです。

きっと、気になったことは他にもあるのだと思いますが、心のモヤモヤが持続しているものに飛びついてやっているってことですね。

## 6. ターニングポイントを迎えるまではどんな仕事を経験してきましたか？

仕事はあまりしなくなかったです…。

しいていうなら整形外科のクリニック？

7. 当時は、将来の展望をどう考えていましたか？

仕事もプライベートもな～んにも考えていなかったです。遊ぶのが楽しかったんですね。

8. 当時の感想や思い出、悩みや不安は？（プライベートも含めて）

社会人としての基本をビシバシ叩きこまれて「社会の荒波ってあるんだなあ…」と、呑きながら缶ビールを飲んで歩いて家に帰りました。

9. 当時に影響を（良くも悪くも）受けた人物はどんな人？どんな影響を受けましたか？

院長や事務長（院長の奥様）、リハビリのスタッフ、事務の方、全ての人に影響を受けたと思います。

厳しくしつけ（私は甘ちゃんだったので…）をされながら、スタッフ皆で同じ方向を見て仕事を一生懸命するおもしろみを教えて頂きました。

10. ターニングポイントを迎えた時の気持ちは？不安は？不安があればどう対処しましたか？

不安？？？何も無いです…。

いつもと変わらず遊んでいたと思います。

11. 今取り組んでいること、学んでいることをやりはじめたときはどうでしたか？

ただただ、面白いですよね。

12. その頃の挫折・失敗体験は？また、そこからどう立ち直りましたか？

したか？

「挫折」は無いですが「失敗」は沢山あったと思います。あまり覚えていないですが…。

でも、失敗するのも悪いことではないですし、新たな「学び」を得たと思うと後からジワジワ「楽しみ」に変換されますよね。

ただ、このタイムラグをどう処理するかを考えるとひたすら愚痴るか、全く違うことをして過ごしていた気がします。

13. そこから何を学びましたか？また、現在にどう生きていますか？

「それもまたよし」と、自分に対する気持ちの決着のつけ方や「時間が解決してくれること」や「時間しか解決できないことがある」ことを知りました。

### III. 具体的な仕事の内容

1. 1日の仕事の流れは？

リハ科の仕事とケアマネージャーの仕事を行ったり来たりしています。

二足のわらじを履いてみたものの、上手く歩けている感じは全くしません…。

一人で下手っぴな阿波踊りをしているように、ただただドタバタしています…。

2. 今取り組んでいること、学んでいることの内容は？

日常的にやっていることは「人の話を聞くこと」が大半な気がします。リハスタッフの相談や利用者様やご家族の相談や生い立ち、不満などなど。

昨年は「面接技法」の勉強をひたすらしていました。

## 3. やりがいは？

スタッフや利用者さん、患者さんが日々穏やかな気持ちでいられたり、少し笑っていてくれれば最高です。

## 4. これまでの仕事上での最大の成功は？

なんだろう……。過ぎ去ったことの記憶が消去されています……。

## 5. それによって何を得て、何を学びましたか？

消去されていて具体的な内容が……。

## 6. その学びをどう活かしていますか？

消去されました……。

## 7. 現在、解決しなければならない問題は？その解決策は？

いつやりますか？

ここ2年くらいで色々考えていますが、ひ・み・つです♪

自分は不言実行型の人間だと思います。

言わないで実行に移さなかったことも沢山あります。

ずるい人間なんです……。

## 8. その仕事に就いて自分が変わったことは？

全てのことに「良い」「悪い」の判定をつけないこと。

ただそこに事実があるだけで「全て良し」と思えるようになったことでしょうか。

## 9. 仕事以外にも何かやっていることは？ 休み日とか……

季節によって大きく変わりますが、冬ならスノーボード、春ならバ

ックカントリー（スノーボード）、夏ならボディボードもしくはサーフィン、山登り、キャンプ、秋なら読書と散歩。

一人遊びも、誰かと遊ぶのも大好きです♪



## 10. 生活と仕事の両立について

母と同居なので私は家事をやりません……。

夫は義母の作ったお弁当を持って仕事に行きます。「愛義母弁当」です。

## IV. おわりに

## 1. 今後（近い将来 3～5 年後程度）の目標は？

いつも目の前のことしか見えていないことと、ひらめきで新しい仕事を発掘しています。

楽しそうなことや無力感に苛まれたことに手を出して、日々慌てながらこれからも過ごしていくと思います。

## 2. そのためにどんな想いでどんな取り組みをしていますか？

またきつと興味がわいて色々手をつけるのですが、一人だと何もできないので「助けてくださ〜い」って、周りの人を誘い込むと思います。

## 3. 目指している人物はいますか？

目指していませんが、母にはどんどん似ていっていると思います…。

あと、あまりに崇高すぎて目指せませんが、中学3年生の担任の先生はとても印象に残っています。

「人は黙っていても相手の悪いところは見えます。良いところは見ようと思わないと見えないです。ちゃんと見るようにしていきましょうね。」といった内容の言葉を先生から聞いてから少しずつ練習をしていきました。そうすると良いところばかりが目について、悪いところって見えづらくなるんです。

## 4. 目指している人物がいたとしたらその人物はどのような点で

目指す価値がありますか？

母は、好奇心旺盛でヒタヒタと一人で行動をするけれど、けっこう怠け者なところを見ていると「この生き方良いなあ」と思います。

先生に関しては崇高なお方過ぎて全く手が届く気はしませんが、あのような思いで生きていたら人生が潤うなあと思います。

つまり、自分の人生が満ち足りたものにするために自分は目指していることに今気づきました。

## 5. あなたにとって仕事とは？

昔勤めていた整形外科の物凄い怖い院長が「仕事は8時間やっている。人生の1/3だ！それをないがしろにしていたら、人生の1/3を損しているものだ！」と、おっしゃっていました。

仕事って何かを生み出しているのですが、それは（どのような仕事でも）対象者がいて「その人のためになるもの」でないといけません。私は思っています。「人を不幸にすることは仕事ではない」

かと…。

人生の1/3の時間を費やして誰かを幸せにすることのお手伝いがどこかで出来ていたら私の人生も素敵なものになるかな〜と思っています。

私の対象者は患者様であり、利用者様であり、うちのスタッフです。うちのスタッフが元気でニコニコ仕事をしていてくれれば、きっとその先にいる対象者も幸せになっているはず。皆が幸せなら私も幸せです。❤️



## 6. AMGで働く仲間に向けてメッセージをお願いします！

これはうちの夫の上司が言っていた言葉です。

「仕事をするときに、自分のひとつ上の組織のことを知るようになりましょう。自分の足元のことばかり気にしているようでは半人前です。」と。

それを考えるとAMGの組織はとても分かりやすいです。

配属部署→リハ科→病院・施設→クラスター→AMG全体 などなど

そんな感じで分かっていくと、AMGって悪くない組織だなと思います。

組織が大きく存在できているということは、出来ることが増えていくってことです。

自分の人生を潤すためにも、やりたいことをどんどん形にしていきたいでしょう。

さがみリハビリテーション病院リハビリテーション科のスローガンはみんなの「思い」を「形」に〜その人らしさを求めて〜ですからね♪

## ☆☆ 越谷誠和病院 那須高志さん (PT) のご紹介 ☆☆

### I. はじめに

1. 基本的属性 (性別、年齢、職業、家族構成、居住地、資格・免許、学歴)

性別：男性

年齢：34歳

職業：理学療法士

家族構成：妻 娘 (2016年4月生まれ) 

居住地：埼玉県越谷市

資格・免許：理学療法士・鍼灸師

学歴：明治鍼灸大学 (現・明治国際医療大学) 卒業  
関西医科専門学校 卒業

2. なぜこの職業に就こうと思ったのですか？

スポーツに関わる仕事がしたくて鍼灸師を目指しました。大学の授業で附属病院のリハビリテーション室を見学する機会があり、そこで働く理学療法士の姿をみて、理由はわからないのですが「この仕事がしたい！」と思いました。

3. 今、取り組んでいること、学んでいることは？

2017年より越谷誠和病院へ異動となりました。リハを必要としている患者様に十分な提供が出来るように一日や週の提供数・スタッフの勤務調整等の基本的な事から始め、今後は効果判定等をし、当科の取り組みが適切であったかを振り返ることが出来ればと思っています。

4. 今、取り組んでいること、学んでいることにはどんな想いでIIの5と被るエピソードですので、割愛させていただきます。

### II. 経緯とターニングポイント

1. 職歴

2009～2013 信州大学医学部附属病院

2013～2016 上尾中央総合病院

2017～越谷誠和病院

2. 子供のころはどんな子供でしたか？

大人しい子供でした。姉と兄がいて末っ子ですのでマイペースでした。

3. 父親から学んだことはなんですか？

父親は真面目な性格で仕事は手を抜かない事。また職場の若手や出入りしている業者さん、また友人等を大事にしていたので、周囲への気配り等を学びました。

4. 母親から学んだことはなんですか？

母親は一步退くタイプで夫や子供をサポートしてくれるのですが、気分の変動を表に出さない人です。不快な日もあるはずですが、安定した接し方は周囲へ安心感を与えられるなど学びました。

5. 今取り組んでいること、学んでいることのきっかけは？ (ターニングポイント)

理学療法士になり大学病院に就職したのですが、700床の規

模で理学療法士が10数人しかいませんでした。8時から20時位までお昼ご飯も食べられない時も多く、それでも全患者回りにきかず、4年目のある日に看護師さんから「今日も来ないのですね」と言われた瞬間に気持ちが切れてしまい職場を変えようと思いました。(マンパワーの件は上司に相談等もしましたが大学病院という場所柄、改善は難しかったです)。リハビリテーションを必要としている方に十分な提供が出来、働くスタッフが仕事に集中できる様な環境を作り働きたいと思いました。

6. ターニングポイントを迎えるまではどんな仕事を体験してきましたか？

整形外科が多く、腱板断裂を中心に靭帯損傷や人工関節等の術後症例をみていました。また救急では脊髄損傷や熱傷、その他の科では難病や小児など幅広い症例を担当させて頂きました。臨床に加え研究活動もしていました。

7. 当時は、将来の展望をどう考えていましたか？

あまり先の事は考えられませんでした。臨床で結果を出すこと、毎年研究をすることで頭がいっぱいでした。とりあえず5年くらいは大学病院に居ようかなくらいでした。

8. 当時の感想や思い出、悩みや不安は？(プライベートも含めて)

とにかく仕事に夢中でした、学会前などは日付が変わるまで残ることもしばしばでした。リハビリテーション部の医師もセラピストも研究や臨床に関してとても厳しかったです、セラピスト人生を始める環境としては良かったと思います。准教授回診で怒られたのも今ではいい思い出です。

ただ非常勤であったため給料は高いとはいえ、かなりの頻度で学会や研修に行っており金銭的にギリギリの生活をしていました…この生活じゃ結婚なんて夢だなと感じていました笑。

9. 当時に影響を(良くも悪くも)受けた人物はどんな人？どんな影響を受けましたか？

前述したリハビリテーション部の医師です。治療成績が9割良好だったら良いと感じるかも知れないが、残りの1割はどうなる。必ず全症例で結果が出せる事を目指しなさい、また医師もセラピストも結果が全てであり、3年過ぎたら経験年数は関係なく実績を作り世間の先輩を追い抜きなさい。とよく言われました。今でも思い出します。

10. ターニングポイントを迎えた時の気持ちは？不安は？不安があればどう対処しましたか？

マンパワーの問題でしたので上司や他科の医師などにも相談しましたが状況はわかりませんでした。介入できない患者様に申し訳なく、耐えられなくなったため職場を変えることにしました。今ではもう少し考えて行動すれば他の選択肢もあったかなと思います。

11. 今取り組んでいること、学んでいることをやりはじめたときはどうでしたか？

異動してきた私が勤務・スケジュール調整をすることに、皆さん反発があったと思います。

嬉しくない事を直接言われた事もありますし、影で言われていまずと律儀に報告してくれるスタッフも居ました笑

12. その頃の挫折・失敗体験は？また、そこからどう立ち直りましたか？

ミーティングや会議などで変化をもたらす意味や必要性の説明を繰り返しましたが理解が得られない事が何度もありました。普段家に帰ると仕事の事は考えないのですが、家でもイライラしました。プレゼンを続けて納得してもらう事を徹底しました。

13. そこから何を学びましたか？また、現在にどう生きていますか？

自分の思っている「当たり前」や「良い事」が相手にとっては当てはまらない事がある事を感じました。もちろん自分が間違っている可能性もあるので、相手の意見を聞き考えることが自分の考えを見つめ直すきっかけにもなると感じました。

### III. 具体的な仕事の内容

1. 1日の仕事の流れは？

8時頃出勤します。

外来患者を中心に担当しているため、その日の担当患者を確認しスケジュールを立てます。患者の合間には他のセラピストの翌日以降のスケジュール調整や事務作業も行います。曜日によっては会議やカンファレンスが入ってきます。概ね19時頃に病院を出ます。

2. 今取り組んでいること、学んでいることの具体的な内容は？

前述した通りです。

3. やりがいは？

下の記述と同内容です。

4. これまでの仕事上での最大の成功は？

患者とセラピストの関係がなくなったと感じる瞬間です。例を一つ上げれば、モーグル選手が頸髄損傷で入院され担当したのですが、復帰することが出来ました。その復帰戦を観て、私が仕事をする必要が無いと改めて感じとても嬉しかったです。ただスタート直前、私達が持っていた横断幕を見た瞬間に涙が出てきて、コブが見えなくなりコースアウトしてしまいました笑 その後、引退試合となった全日本選手権も観られ幸せでした。

5. それによって何を得て、何を学びましたか？

その方には伝えませんでした。始めは競技復帰が厳しいかもしれないと思っていました。私の予後予測や価値観が患者さんの希望の妨げになりうることもあると感じました。その人が幸せと感じる事はなんだろう、その為に何が出来るのか、セラピストとして阻害せず協力出来ているかと思うようになりました。

6. その学びをどう活かしていますか？

その選手は競技復帰希望が強いだけでなく、復帰は自分の怪我をしたコースにすると決めていました。そういった気持ちの強い方は自らの人生を選択していくのでいいのですが、そうでない方や訴えの少ない方、またご家族の方がより良い結果になる為にどのような関わり方が出来るかを考えながら働いています。

7. 現在、解決しなければならぬ問題は？その解決策は？いつやりますか？

異動をしましたので、当院で結果を出すことです。もちろん業績も大事ですが、患者さんへの利益を第一に考え数字で評価が出せる様にしたいです。状況の把握をし始めていますので、それが

終わり次第改善策が出せればと思います。

8. その仕事に就いて自分が変わったことは？

職業柄、人と接する機会が多く生活が色々変わりました。妻が作業療法士ですので結婚のきっかけにもなりましたし、後述するシクロクロスの辻浦氏も患者として出会いました。人生や生活が変わるきっかけは人だと感じました。

9. 仕事以外にも何かやっていることは？ 休みの日とか…

子供がいるのでお休みの日は出来るだけご飯の準備や外に連れ出すようにしています。またシクロクロスとマウンテンバイクというオフロードの自転車競技をしています。成績によって昇格・降格がある組織に属しています。



10. 生活と仕事の両立について

子育ては、勤務日は帰宅するとあまり出来ませんので、お休みの日はご飯やお散歩等出来ることを行っています。また自転車の練習は、勤務日は出勤前や帰宅後に30～60分程度、お

休みの日は4時頃起床し朝のうちに練習に行くこともあります。

秋冬はシクロクロスのレースが月1回程度あり妻と子が応援してくれます。マウンテンバイクは妻もやるので家族と友達でイベントに出たりします。子育ても自転車も妻の協力なしではやっていけませんので感謝しています。

#### IV. おわりに

1. 今後（近い将来3～5年後程度）の目標は？

Ⅲの7とほぼ同内容です。

2. そのためにどんな想いでどんな取り組みをしていきますか？

私自身が数字を出されないと納得しないタイプですので、数字で証明出来るような結果が出せないとダメだなと考えています。一方で数字では表しにくいスタッフの個性などは大切に、みんなが輝ける職場にしたいです。

3. 目指している人物はいますか？

明治国際医療大学附属病院の理学療法士の松本和久先生と木村篤先生と2003～2010シクロクロス全日本チャンピオンの辻浦圭一氏です。

4. 目指している人物がいたとしたらその人物はどのような点で目指す価値がありますか？

私の人生やライフスタイルを変えるきっかけとなった方々です。この方々の生活や仕事姿を見て理屈ではなく、こうなりたい！と強く思われました。この方々の様な魅力が出るような生活や仕事姿を目指したいです。

## 5. あなたにとって仕事とは？

生活のためです。家族が安心して暮らせることや生活が充実することが最優先です。ただしせっかくなので何か夢中なことに追いつめることがあると仕事が楽しくなると考えています。

## 6. AMGで働く仲間に向けてメッセージをお願いします！

私は途中でAMGに仲間入りしました。以前居た環境とは異なる

充実したマンパワーの中で臨床に集中出来る安心感があります。仕事の質を上げることはもちろんですが数が多いということはとても有利だと思います。AMGのネットワークを活用すれば患者・利用者様への利点だけでなく働く私達のモチベーションにもつながる何かが生み出せるのではと考えています。より良い仕事をするため施設間の協力が出来ればと思っておりますので今後ともよろしくお祈りいたします！



【発信元】

上尾中央医科グループ協議会 リハビリテーション部

部長：奥村 博文

担当：坂本 佳奈 (kana.sakamoto@achs.jp)

長澤 花菜 (kana.nagasawa@achs.jp)

ご意見やご感想、お待ちしております